

2013年度 アカデミックコモンズプロジェクトルーム 成果報告書

作成日 2014年 2月 12日

プロジェクト名	プロジェクトマッピング	メンバー数	7	
代表者	所属	理工学部人間システム工学科	学年	2
	ふりがな	おがさ わたる	/	
	氏名	小笠 航		
プロジェクトの 成果	<p>当初の予定通り、イベントを通して理工学部やアカデミックコモンズのことを知ってもらおうという目標のもと、様々なイベントを行うことができた。具体的には、Ubuntuを用いてLinuxのことを知ってもらい、手軽にプログラミング環境を構築できるようにしようというコンセプトの元行われた「Linux Cafe」の実施や、プロジェクト名にもなっている「プロジェクションマッピング」の実施によって理工学部生が持つ技術を外部の人や今後来るであろう新入生に向けて発信することができたように思う。</p> <p>プロジェクトの運営や達成に伴う成果について具体的に記入してください。</p>			
アクティビティ 実績 (※日時・イベント 名称・内容を記入)	<p>2013/11/3 「Maker Faire」に機巧堂の手伝いとして参加。イベントの運営やプロジェクションマッピングについての技術について学ぶ。</p> <p>2013/11/25 「Linux cafe」実施。LinuxOSであるUbuntuの布教、技術の紹介などを行った。</p> <p>2013/12/16-2013/12/20 「プロジェクションマッピング」を六号館前にて実施。神戸新聞やサンテレビの方が取材に来るなど大盛況のうちに終わり、我々の団体を世間に知らしめることができた。</p> <p>プロジェクト実施期間中に行われたアクティビティ(イベント・ワークショップ・発表会 等)について具体的に記入してください。</p>			
プロジェクトを 通じて学んだこと	<p>今回の活動では、まず「Linux Cafe」の実施の後に「プロジェクションマッピング」の実施という形で進行していった。スケジュールがギリギリであったため、「Linux Cafe」のほうは不必要ではないのかという議論も行われたが、結果的にはそうではなかったように思う。なぜなら、“広報の難しさ”というものを知ることができたからである。実は「Linux Cafe」は参加者がほとんどおらず(身内のみ)、イベントとしては失敗の内に入る内容だった。その後の反省会にて、広報を失敗したのではないかという意見が挙がり、それ以降常に広報の存在を考えながらイベントの運営を行うこととなった。その結果「プロジェクションマッピング」の際には運も相まって広報は成功し、1週間で累計300人ほど集まるという学内イベントでは到底ないような大成功を収めることができた。もちろん「Maker Faire」でたくさんの技術を得ることができ、「プロジェクションマッピング」のイベントで発揮することができたというのもプロジェクトを通して学んだことではあるが、私はこのようなイベントを行う際に常に考えないといけないことである“広報”というものを学ぶことができたのが今回のプロジェクトで得ることのできた大きな点であるように思う。</p>			
今後の課題	<p>まず最初に挙げられるのが、プロジェクションマッピングの技術力の低さである。準備期間の少ないことも相まって、テレビで見るようなプロジェクションマッピングとは似て異なるものとなっていたように観衆もそして私たちも感じてしまっていた。なので、次回行方際にはこの技術力の向上を目指したい。また、今回のプロジェクトは常に準備がギリギリ間に合うかどうかという緊迫した状態で行われていたため、スケジュールの管理も徹底していきたい。</p> <p>プロジェクトの改善点について記入してください。</p>			

【提出書類】 プロジェクトに関わる写真を3～4点提出してください。

活動内容を補足する資料がある場合は、提出してください。(補足資料、成果物[ビデオなど])